台東薪能について

江戸幕府の庇護のもとにあった能楽は明治維新で大打撃を受けます。明治二年、徳川宗家とともに観世大夫も静岡に移りました。混乱のなか江戸に残って能楽を守った一人が初世梅若実です。慶應元年に厩橋の自宅に建てた小さな舞台が復興の拠点の一つになりました（のち篠山藩青山家の江戸中屋敷舞台を移築）。明治八年、上根岸にあった加賀前田家の屋敷に能舞台が作られました。後に染井に移築され長く親しまれます。現在は横浜能楽堂に移築されています。昭和十一年、東京藝術大学に邦楽科が設置され能楽も教科の一つになりました。

能楽と台東区とのこうした深い縁があって台東薪能は生まれました。薪能は、本来は春の季語にもなっている神事です。現在は主として、野外の仮設舞台で夜間に篝火を焚いて行われる能の公演を指します。〝火入れ式〟が大きな呼び物ですが、台東薪能では新門の方たちによる木遣りで火が運ばれるのが他にはない特色です。台東区民が育てて来た薪能を、末永くご支援ください。

（児玉　信）

台東薪能上演の様子

木遣りの様子

プロフィール

能「菊慈童 遊舞之楽」
能楽師シテ方観世流

坂 真太郎

昭和47年（1972年）、故・坂 真次郎の長男として東京都台東区に生まれる。三世・観世喜之師に師事。昭和50年に仕舞「老松」にて初舞台。平成7年に東京藝術大学音楽学部邦楽科能楽専攻を卒業。在学中には「安宅賞」を受賞。平成15年に皇居・桃華楽堂で独鼓「菊慈童」を皇后陛下・皇太子殿下・同妃殿下の御前にて奏演。平成18年に国立科学博物館を会場とする初の邦楽演奏会「邦楽図鑑」を企画、出演。これまでに「石橋」「猩々乱」「道成寺」を披演。浅草寺境内での「台東薪能」には、昭和56年より出演。ＮＨＫ大河ドラマ「功名が辻」「風林火山」「軍師官兵衛」に出演。現在、台東区アートアドバイザー、たいとう観光大使、一般社団法人 日本能楽会会員（重要無形文化財能楽総合保持者）、公益社団法人 能楽協会 東京支部常議員。台東区在住。

狂言「鬼瓦」
能楽師狂言方大蔵流

山本 泰太郎

埼玉県狭山市出身。
故・山本則直の長男。父及び山本東次郎（人間国宝）に師事。
昭和51年10月、景英後援会にて狂言「靭猿」の子猿で初舞台。
昭和63年、国立能楽堂開場五周年記念にて「千歳」を披く。
平成3年「三番三」、翌4年には「那須語」、6年３月、国立能楽堂狂言の会にて「獅子聟」、8年11月山本会別会追善公演にて「釣狐」、17年山本会別会にて「花子」を披く。
平成22年度第65回文化庁芸術祭優秀賞受賞。
平成23年5月、第15回日本伝統文化振興財団賞受賞。
一般社団法人日本能楽会会員（重要無形文化財能楽総合保持者）、公益社団法人能楽協会会員。

能「巴」
能楽師シテ方観世流

観世 喜正

昭和45年（1970年）、三世・観世喜之の長男として東京に生まれる。
２歳半にて初舞台。「のうのう能」「喜正の会」を主宰し、能楽「神遊」同人として多くの公演を手掛ける。本拠地の東京神楽坂の矢来能楽堂を中心に、全国各地での公演に多数出演する他、普及活動や講演も多く行なう。また謡曲のCD化、能公演のDVD作成など能楽教材のソフト化にも積極的に取り組み、全国にまたがる観世九皐会において、能の普及事業・謡曲指導に務める。慶應義塾大学法学部卒。公益社団法人観世九皐会理事。公益社団法人能楽協会理事。一般社団法人 日本能楽会会員（重要無形文化財能楽総合保持者）、法政大学大学院、皇學館大学文学部非常勤講師。著書「演目別に見る能装束」(淡交社)、DVD「スピカろうそく能」（日本伝統文化振興財団）ほかの主演・作成・監修。